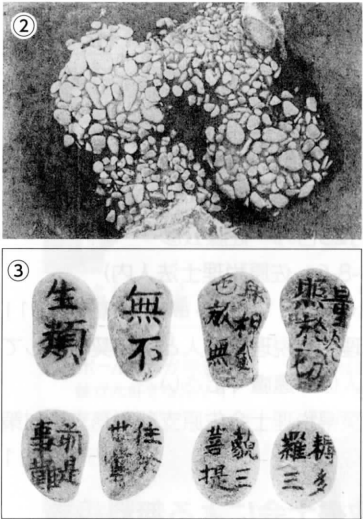


香取遺産

vol.143

「二石一字塔」 篤い信仰のあらわれ



①一石一字塔(沢地区)
②経石埋納状況(堀之内遺跡)
③出土した経石(堀之内遺跡)

仏教経典を写すことで功德を得ようとする写経がありますが、これが石造物の形で現れたものに一石一字塔があります。川原石などの小石に経典を一字あるいは数字ずつ書き写した経石を集め、土中に埋納して経塚とし、その上に建てられたものです。

市内でも数例が確認されていて、その一つが、道の駅くりもとの向かい側にある沢地区の共同墓地入口にも建てられています。塔身は高さ約60cm、正面に「妙法蓮華経一石一字／延享二乙丑季十月立」、向かって右側面に「師範自性院常源存位／現生安穩後生善處」、左側面に「毎日作是念以何令衆生／得入無上道速成就仏身」と刻まれています。

「石塔の背後に建つ「山辺松貞の碑」の石碑には、「沢村の名主であり医師でもあった山辺松貞(法名自性院常源)が、延享2年(1745)10月に建立した。信仰心厚く、此の上ない最高の道に入り、速やかに仏身となることを欲して、妙法蓮華経を一石に一字ずつ記して土中に埋め、その上に塔を建立した」といった内容が記されています。

市内にはこの他、谷中の西福寺入口、鶴崎農村協同館裏、分郷真福寺、野田松林寺、油田崇徳寺などでも確認されています。



一石一字塔あるいは経塚の造立は、江戸時代に最盛期を迎え、その分布も全国に及んでいとされます。ただし、経石の埋納については、実際に掘り起こさないとわからないため、その多くは未確認のままと言えます。市内の一石一字塔についても、残念ながら経石は確認されていません。なお、過去の発掘調査により経石が確認された事例もあります。堀之内字平台「堀之内遺跡」では、石塔はありませんが、経石埋納遺構が確認され、多くの経石が出土しました。また、成田市堀籠「かのへ塚」では、明和2年(1765)銘の石塔とともに、72000個の経石が出土しています。

例えば法華経の総文字数は一般に69384文字と言われます。造立には、膨大な数の小石を集め、また一人あるいは複数人の手によって文字を書き写して埋納するという、手間と労力を要するものと想像されます。一見するとシンプルな形の石塔ですが、背景には建立者の篤い信仰心が隠されているのではないのでしょうか。

圓生涯学習課

☎1224